「言語聴覚研究」への論文投稿は，日本言語聴覚士協会のホームページの会員マイページのメッセージ機能（https://members.japanslht.or.jp/member/messages/compose）からお願いします．「誓約書」や「投稿チェックシート」等の所定書式は協会ホームページの会員マイページでダウンロードして入手してください．

投稿規定

1. 投稿内容

本誌への投稿原稿は，言語聴覚障害領域とその関連領域の学術的進歩に寄与する学術論文を主体とし，他誌に掲載されていないもの及び掲載予定のないものに限ります．

投稿に際しては，著者全員がその旨を了解した誓約書（協会のホームページに掲載の様式）を提出してください．

2. 倫理上の配慮

人を対象とした研究は，ヘルシンキ宣言に基づき研究協力者の人権に配慮して実施しなければならず，どのような倫理的配慮をしたかについて論文中に明記してください．研究協力者には研究内容についてあらかじめ十分に説明し，自由意思によって同意を得てください．また個人情報保護の精神に基づき個人を匿名化してください．倫理審査委員会の承認を得ている場合は，その旨と承認番号を記載してください．

3. 利益相反および公的研究費

研究に利益相反の可能性がある場合は（企業等からの研究助成金や寄付金の受け入れ，実験機器等の提供，コンサルタント料や謝金，特許取得など），原稿本文の最後に利益相反について記載してください．利益相反は研究の公正性，信頼性を確保するために開示することが必要です．

4. 著者について

投稿論文の筆頭著者は原則として本協会の正会員とします．共著者は本協会員であることを問いませんが，言語聴覚士の場合は本協会員に限ります．但し，編集委員会が認めた場合はこの限りではありません．著者は筆頭著者と共著者を合わせて原則として6名までとします．

5. 投稿区分（論文種別）と長さ

投稿区分（論文種別）は，原著，総説，症例報告，短報，調査報告，レポート「現場最前線」，その他とします．

原著　：問題提起，結果，理論的考察，結論が独創的で明解な研究の論文（和文要旨，英文要旨，文献および図表を含め14,000字以内，図表，写真は1個につき400字相当とし，これを超える場合は本文の文字数を削減する．図表の個数は8個を限度とする）．

総説　：国内外の文献を基に最近の研究の進展について論考した論文（和文要旨，英文要旨，文献および図表を含め14,000字以内，図表，写真は1個につき400字相当とし，これを超える場合は本文の文字数を削減する．図表の個数は8個を限度とする）．

症例報告：新たな知見を提供する症例や興味深い示唆に富む症例に関する報告（和文要旨，英文要旨，文献および図表を含め14,000字以内，図表，写真は1個につき400字相当とし，これを超える場合は本文の文字数を削減する．図表の個数は8個を限度とする）．

短報　：新しい発見や概念を早く簡潔に発表する論文ないしデータの採取法や分析法が新しい研究の論文（和文要旨，英文要旨，文献および図表を含め7,000字以内，図，表，写真は1個につき400字相当とし，これを超える場合は本文の文字数を削減する．図表の個数は6個を限度とする）．

調査報告：臨床，教育，職能活動の実態調査等に関する報告（和文要旨，英文要旨，文献および図表を含め14,000字以内，図表，写真は1個につき400字相当とし，これを超える場合は本文の文字数を削減する．図表の個数は8個を限度とする）．

Presented by Medical*Online

レポート「現場最前線」：言語聴覚士が関与する最前線の活動や現場の報告（図表を含め 4,500 字以内，図，表，写真は 1 個につき 400 字相当とし，これを超える場合は本文の文字数を削減する，図表の個数は 2 個を限度とする）．

その他　：編集委員会が必要と認めたもの．

※所定の文字数を超えた原稿は採用しません．編集委員会がカラー印刷を認めた場合の実費は著者が負担するものとします．

6. 著作権

本誌に掲載後の図表を含む原稿の著作権は一般社団法人日本言語聴覚士協会に帰属し，掲載後は本協会の承諾なく他誌に掲載することはできません．

7. 転載

他の著作物からの転載については，原出版社および原著者の許諾が必要です．予め投稿者本人が許諾を得てから所定の書式（協会のホームページに掲載）を提出してください．

8. 統計

統計を主とする論文や特異な統計を用いた論文については，投稿する前に統計専門家の校閲を受けてください．

9. 投稿原稿

投稿原稿は本規定および執筆要綱に従うものとします．

10. 英文要旨

査読を経て掲載が確定した論文の英文要旨は編集委員会が定める校閲者の校閲を経るものとし，著者は英文校閲料を支払うものとします．

11. 査読および採否

掲載の採否は査読を経て編集委員会で決定します．掲載順序についても編集委員会で決定します．

12. 著者校正

原則として 1 回とします．校正は赤で行い，所定の期限内に返送してください．

13. 別刷り

すべて有料とし 50 部単位の希望に応じますが，著者の実費負担とします．

14. 投稿時に提出するもの

①投稿論文チェックシート（所定のフォーマット）
②投稿論文表紙（所定のフォーマット）
③論文原稿
④誓約書
⑤英語論文の場合は校閲証明書
⑥転載がある場合は転載許諾書

15. 投稿方法

投稿原稿は日本言語聴覚士協会のホームページの会員マイページのメッセージ機能（https://members.japanslht.or.jp/member/messages/compose）から投稿してください．

16. 本規定の改訂

本規定は改訂することがあります．

2004 年 1 月 12 日制定
2023 年 6 月 16 日改訂

Presented by Medical*Online

執筆要綱

1. 論文は和文または英文とします．英文の場合は，英語を母語とする外国人に校閲を受け，所定の校閲証明書を添付してください．
2. 原稿は Microsoft 社の Word（DOCX）形式で保存してください．すべて横書きとし，頁設定を A4 縦，原則として 40 字×30 行にしてください．図表は PDF 化しないもの，写真はそのまま掲載できる鮮明度のものを送ってください．当方でトレースをした場合は実費を徴収します．
   図，表，写真の挿入箇所を，本文原稿の欄外に，図○，表○，写真○と赤字で記載してください．また，図，表，写真の一覧を作成すると同時に，各々の図，表，写真の説明は別の用紙に一括して記載してください．
3. 原稿は以下の体裁で作成してください．
   1）表紙（フォーマットを使用し，下記情報を記載してください）
      論文情報：論文題目（日本語・英語），論文種別（投稿区分），日本語のキーワード（5 語以内），英語のキーワード（5 語以内），本文の文字数（要旨，文献を含む），図表・写真の個数
      著者情報：筆頭著者・共著者の姓名（漢字表記，仮名表記，英語表記），筆頭著者・言語聴覚士である共著者の協会会員番号，筆頭著者と共著者の所属（科名まで）と所在地（日本語・英語），筆頭著者の連絡先（住所，電話番号，FAX，e-mail アドレス）．
   2）論文原稿（頁番号と行番号を記載してください）
      ①原著，総説，症例報告，短報，調査報告の場合
      最初に論文題目（日本語・英語），論文種別（投稿区分），日本語要旨（400 字以内），日本語のキーワード（5 個以内），英語要旨（200 語程度），英語のキーワード（5 個以内），本文の文字数（要旨，文献を含む），図表・写真の個数を記載する．
      本文の構成は，原則として以下のとおりとする．
      Ⅰ．はじめに，Ⅱ．方法，Ⅲ．結果，Ⅳ．考察（結論を含む）
      ②レポート「現場最前線」の場合
      最初に論文題目（日本語・英語），論文種別（投稿区分），和文要旨（400 字以内），日本語のキーワード（5 個以内），英語のキーワード（5 個以内），本文の文字数（要旨，文献を含む），図表・写真の個数を記載する．
      本文の構成は，原則として以下のとおりとする．
      Ⅰ．はじめに，Ⅱ．方法，Ⅲ．結果，Ⅳ．考察（結論を含む）
   3）利益相反，謝辞，文献，註
      本文原稿の最後に上記の順序で記載する．
      利益相反関係がある場合は，関係する企業・団体名を記載する．また，研究費の補助を受けている場合，公的機関や私的企業の名称等を明記する．
      記載例）・開示すべき利益相反は存在しない．
      ・本研究は○○から資金提供を受けた．
      ・本研究は○○から実験装置/測定機器の提供を受けた．
      ・公的研究費を受けた場合は，下記を参考にその旨を記載してください．
      例）本研究は，日本学術振興会科学研究費，令和○年～令和○年○○研究（○），課題番号○○，研究課題名○○，代表者○○，の資金を用いて実施した．
4. 外国語名（人名，薬品名など）は原語のまま用い，ワープロを使用するか，活字体で明記してください．ただし，日本語化しているものはカタカナ書きしてください．学術語はできるだけ訳語を用い，必要に応じて（　）内に原語を入れてください．数字は算用数字を用い，度量衡単位は，m，cm，mm，cm^2，ml，l，dl，kg，g，mg，などを使用してください．
5. 論文の文献は，本文に引用されたもののみとします．
   ・本文中に文献を引用する場合は，その個所の右肩に [1)] や [1,2,5-7)] のように記す．

Presented by Medical*Online

・引用した文献をまとめて文献一覧を作成し，本文文末に記載する．文献一覧は引用順に配列し，1)，2)・・・と通し番号を付す．

6. 文献一覧の書き方は統一し，外国雑誌は原則として Index Medicus に従って略号で記載して下さい．文献の著者が3名以内の場合は全員の名前を記載し，4名以上のときは最初の3名を記載し，残りは「・・・ら」，または［et al.］と記してください．著者間は英文の場合も＆を入れずに，カンマで区切ってください．

［雑誌の場合］

著者名：論文タイトル．雑誌名，巻数（号数）：最初の頁-最後の頁，西暦発行年

例　1) 福岡達之，川阪尚子，野崎園子ら：嚥下障害患者に対する随意咳嗽の空気力学的測定と誤嚥の関連．言語聴覚研究，8 (3)：131-138，2011

2) Naeser MA, Martin PI, Nicholas M, et al.：Improved picture naming in chronic aphasia after TMS to part of right Broca's area：An open-protocol study. Brain Lang, 93：95-105, 2005

3) Max L, Yudman EM：Accuracy and variability of isochronous rhythmic timing across motor systems in stuttering versus nonstuttering individuals. J Speech Lang Hear Res, 46：146-163, 2003

［書籍の場合］

〈和書〉

著者名（訳者名）：論文タイトル．書籍名（編者名，編）．版数，出版社，出版地，引用頁，西暦発行年

訳本の場合は，著者名と訳者名の両方を記載する．訳者名は著者名の後ろに（○○訳）と書く．

例　1) 笹沼澄子，綿森淑子，福迫陽子ら：失語症の言語治療．医学書院，東京，52-75，1993

2) 能登谷晶子：機能性聴覚障害．標準言語聴覚障害学―聴覚障害（中村公枝，城間将江，鈴木恵子編）．医学書院，東京，292-295，2010

3) Basso A（武田克彦ら訳）：失語症―治療へのアプローチ．中外医学社，東京，202-222，2006

〈洋書〉

著者名：論文タイトル．In：書籍名（eds 編者名）．Xth Ed.，出版社，出版地，引用頁，西暦発行年

例　1) Goodglass H：Understanding aphasia. Academic Press, New York, 13-39, 1993

2) Heim S：The language production-comprehension network in functional imaging. In：Language-normal and pathological development (eds Riva D, Rapin I, Zardini G). John Libbey Eurotext, Montrouge, 51-60, 2006

［インターネット文献の場合］

著者名：タイトル．記述された西暦公開年（不詳の場合は省略）．URL，参照した年．月．日（西暦年）

例　1) 日本社会学会：日本社会学会倫理綱領にもとづく研究指針．2006 (2023 改訂)．https://jss-sociology.org/wp/wp-content/uploads/2023/03/Shishin.pdf, 2023.7.20

2004 年 1 月 12 日制定
2023 年 6 月 16 日改訂

Presented by Medical*Online